

本大会へ高まる意欲

2016年度がスタートした1日、1970年以來46年ぶりに巡ってくる国民スポーツの祭典、岩手国体本大会の開幕まで半年となった。新学年や新社会人となった選手たちは、本番に向けて意欲を高め、練習に打ち込む。各地で機運の盛り上げや競技運営などの開催準備も本格化。冬季大会から続く完全国体の成功に向け、県内全体が熱を帯びる。

【関連記事4、15、23面】

セーリング会場の宮古市 ホッケー大会で3位に入っの宮古湾では31日、宮古商 男子沼宮内高の工藤優也高ヨット部員らが青空の 主将(3年)は新年度にイ下で練習に励んだ。変化す る風を読み、スピードに乗 ったが課題もある。チー ム力に磨きをかけたい」と 賞した加藤卓部長(3年) は「優勝という結果で周り の方に感謝を伝えたい」、 向口瑠璃さん(同)は「復 興途中の岩手、宮古に元 気を与えたい」と活躍を誓 う。

3月下旬の全国高校選抜

新社会人として新たな環 境で競技に打ち込む選手も いる。女子レスリングの名 門至学館大(愛知県)を卒 業しアジア選手権53kg級3 位などの実績を持つ菅原ひ かりさん(22)は秋田県出身 には、保健体育教員として 種市高に着任。国体優勝を 目標に「限られた練習時間 などで内容の濃さを追求し たい。夢だった教師と好き なレスリングを続けられる 楽しみが大きい」と努力を



開幕まで半年

選手、運営 準備進む



潮風を受けて練習に励む宮古商高のヨット部員。国体本大会を目指し意欲も高まっている=31日、宮古市・宮古湾

大会運営や歓迎の準備も 加速。開会式の式典練習は 9日、北上市の北上総合運 替わりで飾られる。

重なる。

動公園陸上競技場での式典 演技(マスゲーム)を皮切 会場となる奥州市は4月 りにスタートする。県内2 から国体推進室を5人増員 25校の小学生が全国の選 手に向け震災復興支援への 感謝の思いなどを書き込ん だのぼり旗も続々完成。大 会中は式典会場に掲げられ るほか、1日から9月2日 は「全員体制で大会を成 功に導きたい」と力を込め る。

ボクシングなど7種目の 支所内のフロアを拡張中で 本格的に始まる会場設営 や競技運営の準備を進め る。同室の小野寺和夫主幹